

# 第13回 マイクロメカニズムイベント 小さな<sup>3</sup>ロボットのコンテスト



## 例年以上の白熱した戦いに、 大幅なレベルアップが感じられた！

2002年3月30日土曜日、ロボコン発祥の地である東京工業大学で、20mm四方以下の小さなサイズのロボットによるコンテストが行われた。手のひらにすっぽりと収まるくらい小さなロボット同士の競技だったが、見ている者を大きくわかせくらい白熱するものとなった。

今回も総合司会として大活躍した、千葉工業大学の平塚健一先生。ユーモアあふれる柔らかな語り口が、会場をわかせると同時に、参加者をリラックスさせた。

きいだ かつひと  
城井田 勝仁  
(「ロボマガ」記者)



### 棒登りマイクロメカニズム部門

#### 卒業製作のロボットが見事に優勝をつかみとる！

「棒登りマイクロメカニズム部門」では、垂直の棒を登るための強力なアクチュエータ(作動装置)と、それを生かすための、棒との効果的な接触方法が問われる。エントリーするマイクロロボットは、自重に加えて、載せられた5円玉の重さを垂直に押し上げなくてはならない。しかも、天秤を間に挟んで、対戦相手がいるので、そのロボットよりも早く登る必要がある。天秤

を5秒間、先に押し上げた方が勝ち上がるルールなのだ。もちろん、その間に、相手のロボットが天秤を押し返す展開もあり、そうすると力比べになる。

エントリー数の少なさは、この競技の難しさを如実に表している。かなり計算してロボットを設計しなければ、垂直の棒を登ることすらままならないのが「棒登りマイクロメカニズム部門」である。

そんな難競技を今回制したのは、千葉職業能力開発短大の見崎祐子さんだ。「小さなロボットのコンテスト」にはじめて参加した見崎さんは、卒業製作として優勝ロボット「ポリテク号」を作った。先生から与えられた課題は『大会に出て優勝を目指す』というものだったが、見事にそれをクリアする結果となった。



「棒登りマイクロメカニズム部門」では、垂直の棒を登るロボットの力と速さが競われる。5円玉を載せた状態で上まで登り、天秤の一方を5秒間上げ続けた方が勝ちとなる。



今回の「棒登りマイクロメカニズム部門」で優勝した「ポリテク号」。整った外見から、設計段階からしっかりと計算されたものであることがよくわかる。



優勝ロボット「ポリテク号」を製作した、千葉職業能力開発短大の見崎祐子さん。卒業製作として挑戦したということで、本人も驚く優勝だった。